

## 令和5年度 第2回学校運営協議会（記録）

1 日時 令和5年10月17日（火）10:00～12:00

2 参加者 学校運営協議会委員

- ・門池地区連合自治会長 様 ・さんしんハートフル株式会社人材開発部主査 様
- ・沼津市手をつなぐ育成会顧問 様 ・愛鷹分校 PTA 会長 様
- ・校長、副校長、高等部主事、教務主任

3 当日の内容〈○：委員 →：学校〉

### ① 前期学校評価について

#### 今年度重点としている、人権に関する取組、ICT 活用について報告

○問題が起きたとき、その場その場で対応していくことが大切。生徒の実態をよく見て、伝えていく内容の精選や伝え方の工夫を行い、伝えた後見守ることが必要。

→言葉のとらえ違いや背景にあるものは聞き取りを丁寧にしていく。とらえ違いをしていることは、誤解を解けるように伝える。

○人権に関する研修は、学校だけでなく企業でも必要であり、難しさを感じている。目に見えるものだけでなく、背後に潜んでいるものがあるのではという視点を持ち、関わり方を考えていく必要があるのではないかと。企業と学校と一緒に研修を行う機会があってもよいと思う。

○評価への思いを書けていることは評価できる。普段から互いに指摘しあえている環境になってほしい。

○ICTについては、ここ数年課題が続いている様子があるが、どうしてなのか。

→年々、教員のレベルアップはしている。授業の活用も増えているが、活用に関して新しいことが入ってくるので、目標をどこに設定するかを考え直すことが多くなり、常に課題を抱えている状態になっている。

#### 運営協議会の取組を教員と共有するために

○学校運営協議会の目標をどこに設定するかにもよるが、他の教員は何をやっているのか分りにくいのではないかと。

→ワーク地域、防災、地域とのかかわりももっているが、それが運営協議会とつながっていない。つながっている感覚をもてるようにしていきたい。

→学校運営協議会に助けていただいていることをPRして地域と近付いていくことが必要。

○全教員と、全体共有できる場面を作ってみてはどうか。意見交換、熟議を行っていく。生徒の将来をどう考えていくかを軸にして、場面設定を考え、運営協議会を活性化して継続していく。

### ② 10周年記念活動について

#### 経過報告、式典内容説明

○周知方法として、地区の回覧板を使うだけでなく、かかわりのある所へポスターとチラシを置いてもらう方法もある。

○販売会に足を運んでもらう方法として、地域や卒業生の働いているところからの出店を募るのもよいのではないかと。

○PRの方法を工夫していくとよい。目立つようにしたり、積極的に訪問して依頼したりすることで知ってもらえるところが増える。

○式典の中で、生徒が今まで取り組んできたことを発表できるとよい。演出の中にもっと生徒が輝くものを入れていく。

○10年のあゆみをどのように伝えていくのか。

○あゆみのまとめ方として、周年記念誌を作成したことがあるので参考にしてもらえれば。

- 単なるイベントに終わらせず、10周年として何を伝えたいのか、テーマ設定をしていくことを忘れないようにしたい。
- パンフレットの作成、記念動画等を考えているが、より生徒が主体的に伝えていける場を作っていく。

### ③ 地域との連携について

#### ワーク地域の現状

- 週1回地域に出て作業をさせてもらえることは、学習効果としてとても高いと考えている。教員の負担は大きいですが、継続して取り組みたいものなのでどのようなやり方が良いのか、意見をいただきたい。
- 教員の負担が大きいのであれば、取り入れるもの捨てるものを考える。今やっていることをどう圧縮することができるかを考えるなどが思い浮かぶが。
- 知的障害のある生徒にとって、体験は大切なことなので、どのように続けていくかを考えていくことは大切。
- 職場実習と、ワーク地域の違いはどのようなところか。
- 職場実習は、5～10日まとめて行う。ワーク地域は、週1回曜日を決めて年間通して行っている。(途中で班が変わるので、ひとつの作業種は10回程度)
- 採用につながった例はあるのか。
- 実際に採用につながった例はある。教員が引率しているからこそ体験できるという利点もある。
- 連絡調整はどのようにしているのか、ジョブコーチの存在はあるのか。
- 基本的には、教員が一人で連絡調整とジョブコーチ役を務めている。
- グループ数を減らして、教員を複数にしてみてもどうか。
- 小中学校でやっているような学習活動支援のように、日を決めてボランティアを募集してもよいのではないかと。参観を兼ねてなどの工夫をすれば、参加してもらえる保護者もいるのではないかと。
- さんしんハートフルは、支店の清掃を行っている。ジョブコーチがついているので、協働することができるのではないかと。
- 教員が自分たちでやらなければならないと思っていると、改善につながっていかない。どうしたらできるのかの視点と、どうしたら子のためにできるかを考えて、変えていく。

### ④ 分校だよりについて

- 回覧板以外の周知方法を考えるとよい。
- 写真を入れるとよい。終わったことの紹介よりこれから行うことを紹介するほうが興味をひきやすい。
- 担当者が少ないと負担になるので計画を立てて当番制にするとよい。
- 特別支援学級のある中学校に配るのはどうか。
- 生徒の思いや成果を載せると、中学生へのアピールも図ることができる。
- 配布先、内容など、愛鷹分校のPRを考えながら進めていく。

### ⑤ その他

- 生徒主体で地域を巻き込んでの10周年になるとよい。
- 年度末に、成果が確認できるようにしていく。
- 具体的、建設的な御意見をいただき、これから取組に生かしていきます。